

新潟地震の時は…

- ・上所エリアでは火災は起きなかったと記憶している
- ・当時の上所小学校は水田に囲まれてポツンと建っている感じであり、新潟地震の際も倒壊はしなかった
- ・新潟地震の際に一部で液状化が発生していたが、当時は水田が多かったのであまり注目されなかった
- ・当時は上所地区には溜め池がたくさんあった
- ・昔の上所小学校付近は被害が少なかったと記憶している
- ・松林（豪農の住宅など）が列を成して2列で上所地区内を走っており、その場所は地盤も良かった
- ・昭和大桥が落ちたので、越後線の橋を渡って歩いた人がいた

地域の社会特性

- ・エリア内に高台がない、全域が平ら
- ・信濃川が近くを流れている
- ・高齢化率が高い（高齢化率20.1%）
【平成26年新潟市地区別防災カルテ参照】
- ・避難受け入れ地域（白地）までは距離があり、避難が難しい
またエリア内に高台がないため、各ブロック内の高いビル等と協定を結び、緊急に避難できる場所をより多く用意していく必要がある
- ・自治・町内会ごとに、地域内のマンションや施設と独自に協定を結んでいる
- ・地域内のマンションのオーナーとは年一回協議のための話し合いの場を設けている
- ・越後線の所が土手のようにになっている
- ・新潟国体を期に、都市地盤が整備され、広い道路が整備された
- ・近年高層ビルが多く建設されてきた

地域の被害特性

- ・昔松林が走っていたエリアのあたりは地盤が良いが、それ以外の場所はおそらく地盤が悪いと思われる
また、現在でも田畑が多い地域であるため、液状化のおそれがある
- ・小須戸線及び越後線が土手になっていてひとつの堤防であり、そこを越えて津波が来た場合、このA、B、Cエリアは浸水するおそれがある

各ブロックごとの具体的な避難方法

ブロック	特徴	期待される避難行動	避難目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・全面的に避難対策区域になっている ・個宅の自宅、混在地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・家から近い避難目標へ避難する 	第1目標：鳥屋野中学校、南地区センター、地域独自協定施設
B	<ul style="list-style-type: none"> ・全面的に避難対策区域になっている ・農家と個宅の自宅、メイン道路、商業エリアが混在している 	<ul style="list-style-type: none"> ・家から近い避難目標へ避難する 	第1目標：上所小学校、地域独自協定施設
C	<ul style="list-style-type: none"> ・川に近いので、沿岸・沿線地域、河川遡上地域を含み、津波浸水の危険度が高い地域 ・旧中央市場の開発により将来的に変わると思われる ・住民の人口、年齢層が大きく変わる可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは川から離れ、家から近い避難目標へ避難する ・状況に応じて、更に川から離れ、南方向へ避難する 	第1目標：新潟南高校、Nビル、地域独自協定施設 第2目標：上所小学校、鳥屋野中学校、南地区センター
D	<ul style="list-style-type: none"> ・低平地浸水地域が非常に多い ・商業地域と集合住宅地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・家から近い避難目標へ避難する ・状況に応じて、避難対策区域へ避難する 	第1目標：北越高校、地域独自協定施設